



みどりの風

平成29年11月号 在籍児童数482名

学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

本との対話

校長 吉野 高男

校庭の木々の葉が少しずつ色づき始め、秋の深まりが感じられるようになりました。今年の10月は例年になく雨の日が多く、子ども達にとっては、外遊びがままならず空を恨めしそうに見上げる日々の連続でした。

そのような不順な天候続きの中、9月末の運動会から各学年の校外学習や校内絵画展、6年の修学旅行など、そして「篠っこ祭り」と多くの行事がいずれも極端な降雨に見舞われることなく無事終わることができました。運動会の運営・準備片付けでは、保護者の皆様、PTA役員の皆様、おやじの会の皆様に多大なるご協力を頂きました。改めて感謝申し上げます。お陰様で、「篠っこ」らしい優しさと互いを支え合う姿に溢れた運動会となりました。紅組と白組とに分かれての競い合いでありながら、相手を認め称える光景がいたるところで見られました。また、「篠っこ祭り」では、社会福祉協議会篠津支部、更生保護女性会、篠津総合クラブの皆様方にもご協力を頂きまして、賑やかに開催することができました。学校・家庭・地域が一体となって、本校学区地域ならではの地域の教育力と絆を昨年度同様に強く感じることができました。ありがとうございました。



秋の深まりとともに、「読書の秋」も子ども達の中に深まってきています。先日、雨降りの昼休みに図書室を覗いたところ、部屋の隅で低学年の男の子二人が背中を合わせるようにして、ひっそりと、しかしながら、とても集中した様子で食い入るように本を読んでいた。そこには声はないのですが心地よい温かな二人の男の子の交流が見られました。そして、この二人の男の子は、互いの息づかいを感じながら、本と対話していると感じられました。「対話」というと他者とコミュニケーションすることを考えますが、教育学者 佐藤 学 氏（東京大学名誉教授）によると、学びにおける対話には「他者」との対話、「自己」との対話、「対象（教材 テキスト）」との対話があるということです。読書という行為には対話はないと思いがちですが、本の世界に夢中に入り込んでいる子どもは、「対象」と対話し、そして、自分自身に重ね合わせながら「自己」とも対話しています。その行為には、主体性も溢れています。この二人の男の子は、昼休みが終わって教室へ戻る時にそれぞれが感想を言い合って他者との対話もできるだろうと想像されました。このように考えると、読書は次期学習指導要領の主眼となる「主体的・対話的で深い学び」を具現化する大きな要素といえるでしょう。

本校の子ども達の読書活動は、日頃より読み聞かせボランティアの皆様、図書ボランティアの皆様方のご支援により充実したものになっております。今後とも一層のご協力を頂きながら、子ども達が本との対話を深めていけるものと考えております。

昨年度より、本校では「学び合い」による授業づくりの研究を進めています。「学び合い」により「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に迫れるものと考えています。11月11日（土）の学校公開では、子ども達の学び合う姿をぜひご覧頂きますようお願いいたします。ご来校をお待ちしております。